

これだけは抑えておきたい 記念誌づくり

記念誌をつくる際には、何から行えばいいのか、どこから手を付ければいいのか悩めます。
そんな時はこのポイントを参考してみてください。
ご不明な点はどんなことでも結構ですのでお問い合わせください。



1 いつまでに納品させますか？

記念誌の印刷や納品後の完成検査には日数がかかる場合があります。作業時間を確保するためにも、ゆとりのある制作期間の設定をお勧めします。
また、記念誌完成後の配布先を考慮し、必要部数の決定などを行ってください。



2 どんな記念誌をつくりますか？

様々なサンプル記念誌の中から、つくり上げたい記念誌のモデルを確定し、完成イメージの意識統一を図りましょう。その際、発行の目的、制作方針を決定しておく和良好的でしょう。
※表紙・本文の仕様、概算ページ数などを確定すると、見積りが取りやすくなります。



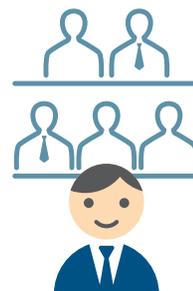
3 資料はどこに？ 写真の「権利」は？

これまで制作された記念誌の他に、使用可能な資料にはどんなものがあるか、またどこに保管されているかなどを事前にチェックしておきましょう。
新聞や写真などの外部資料には、制作（撮影）者に権利がある場合があります。資料の所在一覧などを作成するとともに、権利の有無も確認しておきましょう。
※議会議事録や郷土資料などには、時代背景を知る手掛かりが多くあります。ぜひチェックください。



4 ここが重要！ 記念誌制作外部ブレインの存在

制作担当者は、貴市の水道の歴史に詳しく、多方面に人脈を持っている方が適しているのはもちろんですが、上下水道局 OB の方々も貴重な資料・逸話をお持ちです。ご協力いただけるか事前にご確認ください。
また、図書館や博物館、郷土を研究されている研究員やその関連機関などには貴重な資料が多く眠っているため、ご協力いただける外部ブレインの存在は極めて貴重となり、記念誌の内容にも深みを与えます。
※集められる資料が多いほど、記念誌に幅広い展開が望め、資料的価値も高まります。

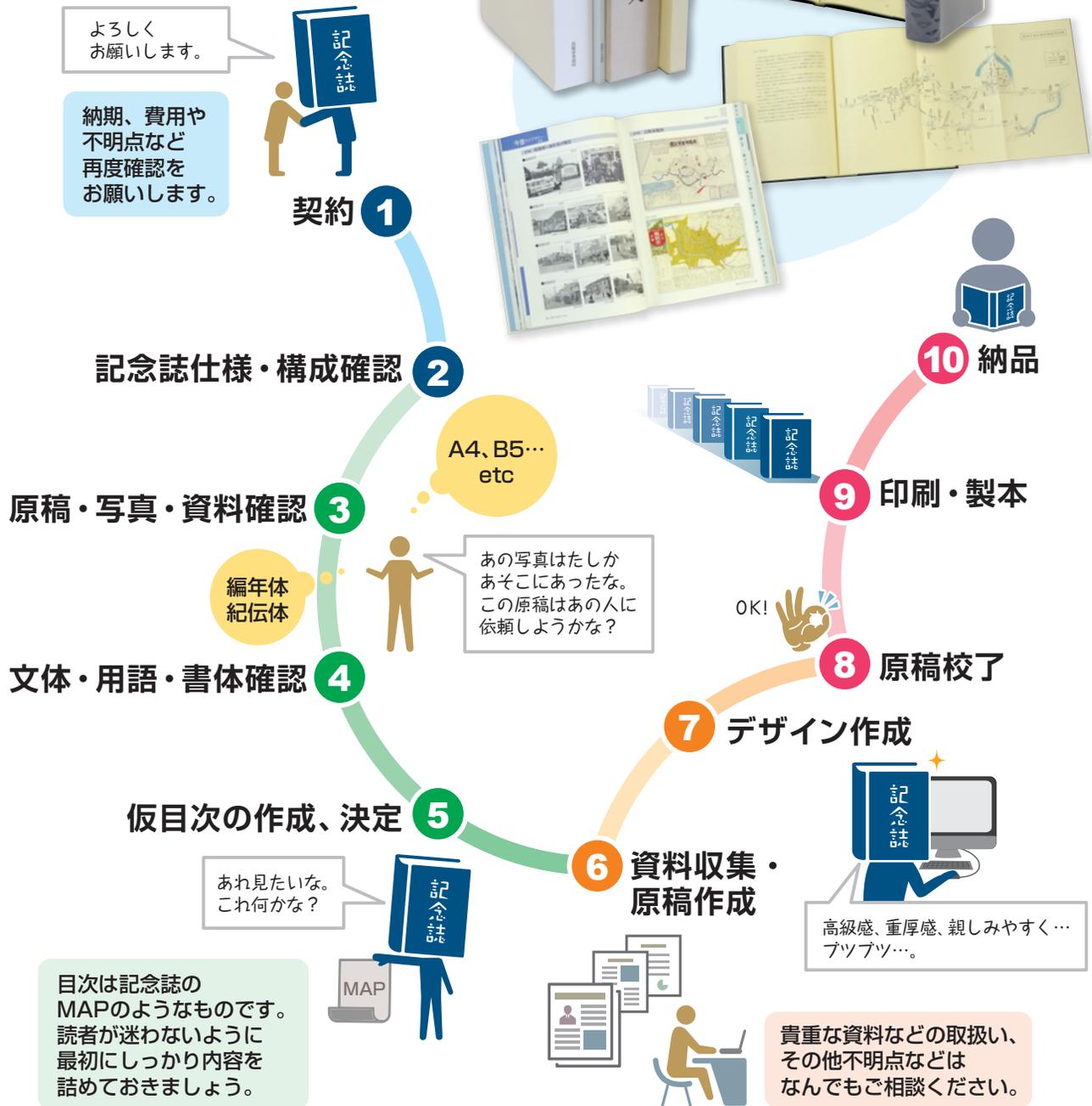


5 お飾りじゃない記念誌にするには

時系列に事実・物事を綴っていく「編年体」（年代順に総括した「通史」などに適しています。）と、カテゴリ別に歴史を叙述していく「紀伝体」（事業の沿革を記した「部門史」などに適しています。）を用い、どのように構成するのかを確認しておきましょう。
※お持ちの資料から、各項目をバランスよく構成できる文体を選ぶのがポイントです。



● 記念誌作成の流れ



貴事業を後世にしっかりと伝える記念誌の制作を!!

水道黎明期から積み重ねてきた先人の努力と、市民に対する水道事業の使命を記録として残し、また次の記念周年を担う方々へのバトンとして記念誌の制作をお勧めします。

お問い合わせ

水道産業新聞社 企画制作部／出版部

〒531-0072 大阪市北区豊崎2丁目7番9号 TEL: 06-6373-3603 FAX: 06-6373-3633
e-mail: kikaku@suidosangyo.jp